



日本高等教育学会第 19 回大会 プログラム

2016年6月25日（土）～26日（日）



追手門学院大学

ごあいさつ

冒頭にて、本年4月14日に発生した熊本地震の甚大なる惨状を悼み、各地域の市町村の力強い復興と関係方々の一日も早い通常生活への復帰を切に祈ります。このような中、予定通り2016年6月25日(土)・26日(日)に、追手門学院大学キャンパスで日本高等教育学会第19回大会を開催できることに深く感謝いたします。

さて、本プログラムをご覧いただければわかりますように、会員の皆様に自由研究発表の申し込みを募りましたところ、おかげさまで多彩且つ多様な発表テーマの申し込みが73件ございました。また本大会より新たな取り組みとして、「日本高等教育学会創立20周年行事に向けたプレ企画特設部会」と「国際特設部会」が開かれます。両部会とも、来年20周年を迎える日本高等教育学会の次のステージへと一步を踏み出す貴重な機会が提供されることでしょう。

大会1日目の午後に予定されている課題研究では、「大学教育の効用」、「大学の教育マネジメントとガバナンス」という2つの部会が開かれます。いずれも現代の高等教育において重要な課題であり、今後の高等教育研究に対して示唆に富む発表が行われます。

大会2日目の午後には開催校主催の公開シンポジウム「教育と入試をどう繋ぐか—真の大学改革を実現するために—」を開きます。昨今、センター試験に代わる入試方法について様々な議論がなされているところですが、真の大学改革を実現するためには、入試という「入口」のみならず、社会に通用する学生を輩出するまでの「出口」を視野に入れた高大接続について、大学関係者と高校関係者による議論の場が必要であると考えます。そのため本シンポジウムでは、この分野に精通しておられる有識者および高校関係者にご登壇していただくとともに、追手門学院大学で導入されているアサーティブ入試を先進的な事例として取り上げさせていただきます。

また、大会2日目の夕方には、学会主催IRワークショップ「執行部におけるIRへの理解促進とIRの成果の学内へのフィードバック」が開かれます。毎年大きな反響があり、今回で3回目の開催となります。グループディスカッションを中心とした参加型ワークショップとなっております。

皆様のお力添えにより、第19回大会が、今後の高等教育について考えるための知的刺激を喚起する機会となりますことを祈念いたします。会員の皆様の多数のご参加を心よりお待ちしております。

日本高等教育学会 第19回大会実行委員会
委員長 秦 敬治

大会日程

6月24日（金）

17:00～19:00 理事会 (追手門学院大学梅田サテライトオフィス)

6月25日（土）

9:15～ 受付 (5号館 B1F 学生ホール)
10:00～12:00 自由研究発表Ⅰ・特設部会 (5号館各階教室)
12:00～12:50 課題研究Ⅰ 打ち合わせ (5号館 8F 大会議室 A)
12:00～12:50 課題研究Ⅱ 打ち合わせ (5号館 8F 大会議室 B)
12:00～12:50 編集委員会 打ち合わせ (5号館 7F 中会議室)
13:00～15:00 自由研究発表Ⅱ (5号館各階教室)
15:20～17:50 課題研究
課題研究Ⅰ (5号館 2F 5201)
「大学教育の効用」
課題研究Ⅱ (5号館 2F 5203)
「大学の教育マネジメントとガバナンス」
18:15～19:45 懇親会 (食堂棟)

6月26日（日）

9:15～ 受付 (5号館 B1F 学生ホール)
10:00～12:00 自由研究発表Ⅲ・特設部会 (5号館各階教室)
12:00～12:50 公開シンポジウム 打ち合わせ (5号館 8F 大会議室 A)
12:00～12:50 総会 打ち合わせ (5号館 8F 大会議室 B)
13:00～13:30 総会 (学生会館 3F 大ホール)
13:40～16:40 公開シンポジウム (学生会館 3F 大ホール)
「教育と入試をどう繋ぐか—真の大学改革を実現するために—」
16:50～18:20 学会事務局主催・IR ワークショップ (1号館 3F 会議室 5)
「執行部における IR への理解促進と IR の成果の学内へのフィードバック」

※会場は変更になる場合がございますので、当日に再度ご確認ください。

大会参加のご案内

- ウェブサイト 最新情報は <http://jaher-conference.jp/> で提供しております。
- 参加費 大会参加費：5,000 円 (当日支払：6,000 円)
懇親会費：5,000 円 (当日申込み不可)
* 会員でない方も当日参加の臨時会員として、上記と同じ金額で参加できます。
**シンポジウムは無料で一般に公開します。
- 学会年会費 大会会場では、学会年会費の納入はできませんのでご了承ください。
- 入場 会場及び懇親会会場への入場は、必ずネームプレートをつけて下さい。原則としてネームプレートのない方は入場できません。なお、ネームプレートはお帰りの際に受付にお返しください。
- 呼び出し 会場での呼び出しは行いませんのでご了承ください。
- 欠席の場合 発表者が欠席する場合は、わかり次第、できるだけ早く大会実行委員会に E-mail にてお知らせください (大会実行委員会 E-mail:jaher2016@haruka.otemon.ac.jp)。
- 資料のコピー 大会実行委員会によるコピーサービスは行いません。自由研究発表用の配付資料等は各自が必要な部数をご用意ください。
- 会員控室 5号館 B1階学生ホールを予定しております。また書籍等の展示場も同じく5号館 B1階学生ホールを予定しております。
- クローク 25日(土)は18:00まで、26日(日)は13:00まで、5号館 6F5601教室で荷物をお預かりいたします。26日(日)は12:00から18:30までは学生会館大ホールでお預かりします。懇親会場には、荷物置場を準備する予定です。貴重品はご自身で管理いただくようお願いします。
- 昼食 大会期間中は大学内の食堂がご利用いただけますが、昼食時は混雑が予想されますので心配な方は各自でお弁当等をご持参ください。
- 懇親会 25日(土)18:15より、食堂棟にて行います。
- 喫煙場所 学内は原則禁煙となっています。学生会館2F及び2号館と3号館との間に喫煙スペースがあります。

発表者へのお願い

- 発表および質疑応答時間

発表人数	発表時間	質疑応答時間
1人	15分	5分
2人	30分	10分
3人以上	40分	10分

※全ての発表について、以下の要領で時間の目安をお知らせします。

- 【1 鈴】発表終了 5 分前
- 【2 鈴】発表終了時
- 【3 鈴】質疑応答終了時

- 発表用機械器具

大会会場には、プロジェクターおよび PC (Windows) を用意します。当方で準備する PC を利用される場合は、Windows Office2013 (.ppt/.pptx, .doc/.docx 等) 及び PDF (.pdf) であれば、基本的に対応可能です。発表ファイルを入れた USB メモリ等をご用意いただき、発表開始前に動作確認をしてください。ご自身の PC を利用される場合には、必要な機器をご持参の上、発表開始前に動作確認をしてください。なお、対応できない場合もあることをご了承ください。

司会者へのお願い

- 発表および質疑応答時間

予定時間を超過しないように時間管理をお願いします。

- 総括討論

各部会の最後に総括討論の時間を設けておりますが、利用できる時間はそれぞれの部会によって異なります。この時間の活用方法は司会者に一任しておりますので、臨機応変に対応していただきますようお願い申し上げます。

- 緊急連絡先

発表者、司会者ともに、当日に緊急の連絡をしなければならない場合には、以下の番号をご使用ください。24 日 (金) 18 : 00 以前の連絡は jaher2016@haruka.otemon.ac.jp へお願いいたします。

大会事務局 : 080-2422-0082 (6 月 24 日 (金) 18:00~6 月 26 日 (日) 13:00 まで連絡可)

会場へのアクセス

追手門学院キャンパスへのアクセスは、以下のサイトをご確認ください。

<http://www.otemon.ac.jp/guide/campus/access/>

<JR 茨木駅・阪急茨木市駅までのアクセス>

【大阪（伊丹）空港からお越しの場合】

大阪モノレール 大阪空港駅→南茨木駅 約 25 分、 阪急南茨木駅→茨木市駅 約 2 分

【大阪・梅田方面からお越しの場合】

JR 京都線・大阪駅 → 茨木駅 快速約 12 分

阪急京都線・梅田駅 → 茨木市駅 特急約 16 分

大阪市営堺筋線・天下茶屋駅 → 淡路駅 約 23 分 阪急京都線・淡路駅 → 茨木市駅 特急約 8 分

【東京・京都方面からお越しの場合】

JR 京都線・京都駅 → 茨木駅 快速約 27 分

阪急京都線・河原町駅 → 茨木市駅 特急約 27 分

<JR 茨木駅・阪急茨木市駅から追手門学院までのアクセス>

■JR 茨木駅・阪急茨木市駅よりバスをご利用ください。

所要時間は約 20～30 分（交通状況によって変動します）、片道運賃 220 円です。

【JR 茨木駅～追手門学院】

- ・ 阪急バス[82・88 系統]安威団地線

⑩番停留所～追手門学院前下車（所要時間約 20 分）

- ・ 阪急バス[87 系統]忍頂寺線

⑨番停留所～福井下車(所要時間 13 分)後、正門まで徒歩 15 分程度

【阪急茨木市駅～追手門学院】

- ・ 阪急バス[82 系統]安威団地線

④番停留所～追手門学院前下車（所要時間約 25 分）

- ・ 阪急バス[77 系統]茨木サニータウン線及び[89 系統]車作線

③番停留所～安威南口(所要時間 13 分)後、正門まで徒歩 15 分程度

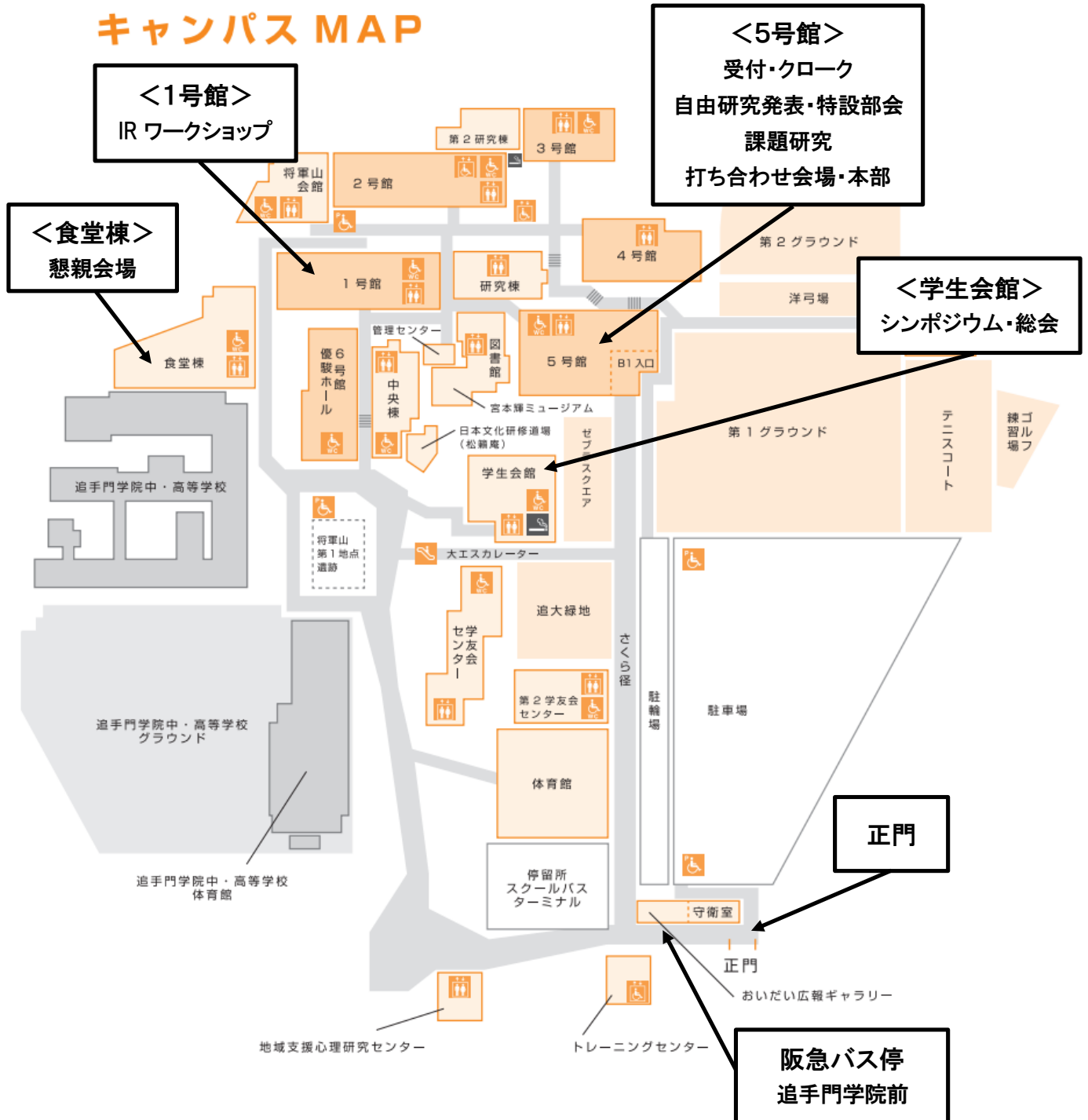
■タクシーの場合、JR 茨木駅、阪急茨木市駅より所要時間は 15～20 分程度、料金は 2,000 円程度です。乗り合わせいただくと便利です。

■駐車場をご利用いただくことは可能ですが、数に限りがありますのでなるべく公共交通機関をご利用ください。

※追手門学院大学までのアクセスについては大会 HP にて詳細をご覧ください。

大会会場の地図

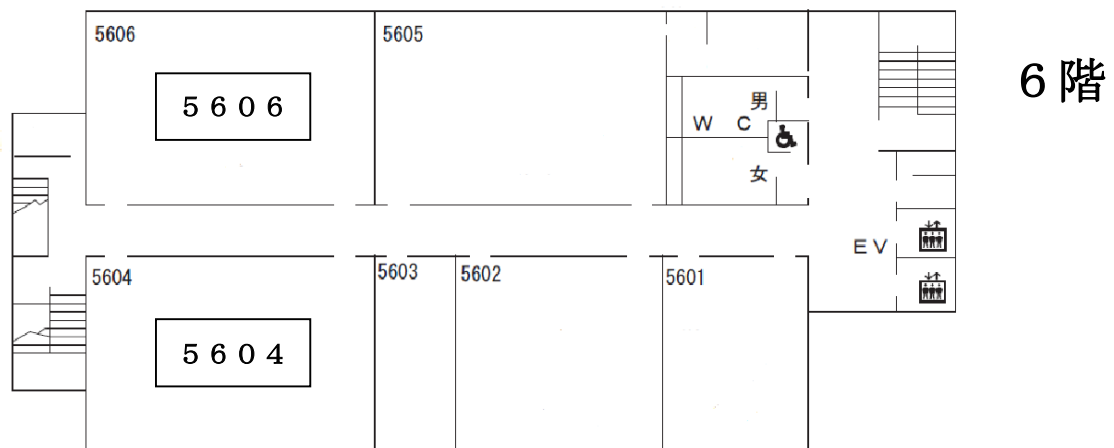
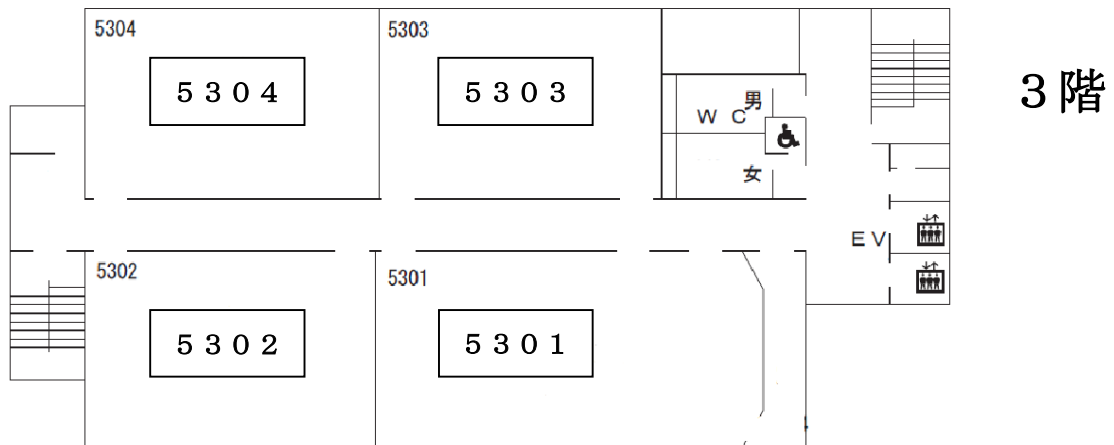
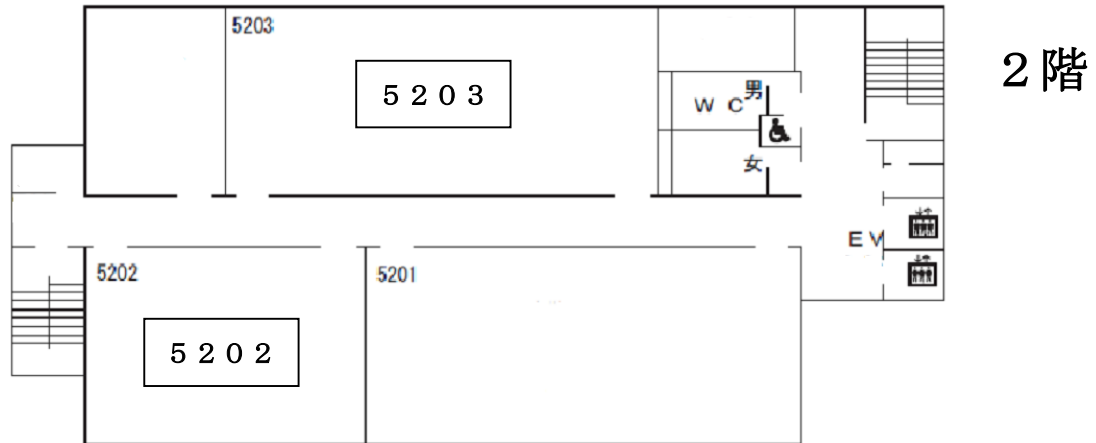
- 大会会場全体図



※正門からさくら径を直進し、突き当たり 5号館が受付会場となっております。

発表会場

5号館2・3・6階【自由研究発表・特設部会・課題研究】



大会会場一覧

6月25日(土)

受付：9:15～

5号館 B1 階学生ホール

自由研究発表 I ・特設部会

5号館：10:00～12:00

5201	特設部会	創立20周年プレ企画部会
5202	I - 1 部会	経営・組織①
5302	I - 2 部会	大学教員①
5303	I - 3 部会	政策①
5304	I - 4 部会	学習成果①
5604	I - 5 部会	IR①
5606	I - 6 部会	キャリア

自由研究発表 II

5号館：13:00～15:00

5202	II - 1 部会	経営・組織②
5302	II - 2 部会	大学教員②
5303	II - 3 部会	政策②
5304	II - 4 部会	アクティブ・ラーニング
5604	II - 5 部会	大学職員
5606	II - 6 部会	IR②
5301	II - 7 部会	質保障

課題研究

5号館：15:20～17:50

5201	課題研究 I	大学教育の効用
5203	課題研究 II	大学の教育マネジメントとガバナンス

懇親会：18:15～19:45

食堂棟

6月26日(日)

受付：9:15～

5号館 B1 階学生ホール

自由研究発表 III ・特設部会

5号館：10:00～12:00

5201	特設部会	国際特設部会
5202	III - 1 部会	経営・組織③
5302	III - 2 部会	歴史
5303	III - 3 部会	政策③
5304	III - 4 部会	学習成果②
5604	III - 5 部会	海外
5606	III - 6 部会	高専・短大
5301	III - 7 部会	学生支援

総会：13:00～13:30

学生会館 3F 大ホール

公開シンポジウム：13:40～16:40

学生会館 3F 大ホール

学会事務局主催ワークショップ：16:50～18:20

1号館 3F 会議室 5

大会プログラム一覧

6月25日（土）～6月26日（日）

日本高等教育学会創立 20 周年行事に向けたプレ企画『特設部会』

来年 (2017 年) の学会大会時に予定されている学会創立 20 周年行事に向けて、本年 (2016 年) の学会大会時に以下のような「特設部会」をプレ企画として設ける。

本学会の歴史は、大学設置基準の大綱化の流れとともに進んで来たともいえる。高等教育の多様化、グローバル化、質保証といった課題が議論されてきたこの期間において、「市場化」は大学間の生き残りをかけた競争と矮小化してとらえられることもあるが、高等教育の多様化、拡大に主眼をおいた問題設定であり、これからの高等教育システムのデザインを考えるうえでの 1 つの重要なアプローチである。このテーマについて、高等教育研究の立場と政治からのもの見方の両面から現状や課題について提題してもらうとともに、登壇者のみならず会員各位の積極的な発言・参加を得て、革新的な議論の場を設定したいと考えている。

テーマ： 高等教育の市場化をデザインする

日時： 2016 年 6 月 25 日 (土) 10:00~12:00

登壇者： 鈴木 寛 (東京大学教授、慶應義塾大学教授、文部科学大臣補佐官)

吉田 文 (早稲田大学教授)

濱名 篤 (関西国際大学学長)

司会： 舘 昭 (桜美林大学教授、本学会元会長)

経営・組織①

司会： 島 一則 (東北大学)

10:00~10:20 大学改革の政策科学的考察(1)

—現状および将来のより良い理解のために—

○山本 眞一 (桜美林大学)

10:20~10:40 大学経営における原価管理とコスト情報の位置づけ

○山本 清 (東京大学)

10:40~11:20 米国のリベラルアーツ・カレッジの経営に関する研究

—スイートブライヤー・カレッジの閉鎖を巡る動向を事例に—

○福留 東土 (東京大学)

○戸村 理 (國學院大學)

11:20~12:00 総括討論

大学教員①

司会： 阿曾沼 明裕 (名古屋大学)

- 10:00~10:20 大学教員として就職するまでのプロセスと就職後の教育・研究活動との関連性
—ボーダーフリー大学に着目して—
○葛城 浩一 (香川大学)
- 10:20~10:40 日本の大学における FD 活動実態に関する考察 (日米 FD 活動実態調査研究(1))
○林 透 (山口大学) 深野 政之 (大阪府立大学)
山崎 慎一 (桜美林大学) 河島 広幸 (山口大学)
堺 完 (日本私立学校振興・共済事業団)
- 10:40~11:00 学生の授業評価を取り入れた授業分析と授業改善
○橋本 健夫 (長崎国際大学) 川越明日香 (長崎大学)
- 11:00~11:20 インタラクティブ教材 “THE LAB” 活用による、大学院研究倫理科目分割への対応
○西村 秀雄 (金沢工業大学)
- 11:20~12:00 総括討論

政策①

司会： 米澤 彰純 (東北大学)

- 10:00~10:20 大学の「教育」を改革する政策のインパクトと実効性
—地方創生政策の理念及び意図の大学における受容とその効果—
○出口 英樹 (鹿児島大学)
- 10:20~10:40 大学評価および認証基準の変化に現れた権力関係の探索
—韓国の大学機関評価認証の指標変更を中心に—
○宋 善英 (韓国大学教育協議会)
- 10:40~11:30 地域住民の大学に対する現状認識と役割期待
—COC、COC+事業地域の調査より—
○杉谷祐美子 (青山学院大学) ○小島佐恵子 (玉川大学)
○白川 優治 (千葉大学)
- 11:30~12:00 総括討論
-

学習成果①

司会： 大森 不二雄 (東北大学)

- 10:00~10:20 **卒業時調査からみた初年次教育**
○片瀬 一男 (東北学院大学)
- 10:20~10:40 **IR のコアとしての卒業生調査に関する研究**
—専門分野別の学修成果に焦点をあてて—
○吉本 圭一 (九州大学)
- 10:40~11:00 **テキスト分析・抽出による汎用的・客観的学修成果例の作成**
○堀井 祐介 (金沢大学)
- 11:00~11:20 **初期キャリアに対して有効な大学の学習経験**
—社会科学分野の大学卒業生に対する質問紙調査—
○小山 治 (徳島大学)
- 11:20~12:00 **総括討論**

IR①

司会： 塚原 修一 (関西国際大学)

- 10:00~10:20 **教育研究情報の視覚化に係るグローバルモデルとその利活用**
—IR 関連情報処理技法として—
○北垣 郁雄
- 10:20~11:00 **IR オフィス設置に関する促進要因と阻害要因**
—事例調査から見えるもの—
○小湊 卓夫 (九州大学) ○畠田 敏行 (茨城大学)
- 11:00~11:40 **英国高等教育における FEC 計測の取り組み、活用とその成果**
○水田 健輔 (東北公益文科大学) ○白川 展之 (慶応義塾大学)
- 11:40~12:00 **総括討論**
-

キャリア

司会： 小方 直幸 (東京大学)

10:00~10:20 **社会科学系分野における学術性と職業性の統合に関する分析**
—職業統合的学習の位置づけの観点から—
○坂巻 文彩 (九州大学大学院)

10:20~10:40 **大卒女子労働とマクロ労働生産性**
—都道府県パネル・データによる接近—
○橋本 圭司 (追手門学院大学)

10:40~11:30 **大学と職業教育**
—7 カ国比較—
石川 裕之 (畿央大学) 大場 淳 (広島大学)
○金子 元久 (筑波大学) 夏目 達也 (名古屋大学)
篠原 康正 (非会員：文部科学省) 南部 広孝 (京都大学)
濱中 義隆 (国立教育政策研究所) ○溝上智恵子 (筑波大学)
村田 直樹 (前文部科学省) ○森 利枝 (大学改革支援・学位授与機構)
○吉川裕美子 (大学改革支援・学位授与機構)

11:30~12:00 **総括討論**

経営・組織②

司会： 池田 輝政（追手門学院大学）

- 13:00~13:20 **大学の分権的運営と部局の経営**
—米国の研究大学を事例から—
○阿曾 昭明裕（名古屋大学）
- 13:20~13:40 **小規模大学における経営の現状と課題**
—「大学経営効率化」アンケート調査の結果から—
○山崎 その（京都外国語大学） 宮嶋 恒二（京都学園大学）
伊多波良雄（非会員：同志社大学）
- 13:40~14:00 **大学コンソーシアムの活発な活動をもたらす基盤は何か**
—社会関係資本の観点から—
○中元 崇（京都大学／名古屋大学大学院）
- 14:00~15:00 **総括討論**

大学教員②

司会： 福留 東土（東京大学）

- 13:00~13:20 **大学上級管理職のプロフェッショナル化とキャリア**
—国際比較調査の結果から—
○米澤 彰純（東北大学）
- 13:20~14:00 **高等教育機関におけるミドルマネジメント人材の特性と能力育成に向けての課題**
○杉本 和弘（東北大学） ○猪股 歳之（東北大学）
立石 慎治（国立教育政策研究所）
- 14:00~14:40 **外国人大学教員の採用に関する国際比較研究(1)**
—一日中の大学教員・職員へのインタビュー調査結果を中心として—
○黄 福涛（広島大学） ○大膳 司（広島大学）
秦 由美子（広島大学） 米澤 彰純（東北大学）
杉本 和弘（東北大学） 李 敏（信州大学）
- 14:40~15:00 **総括討論**
-

政策②

司会： 羽田 貴史 (東北大学)

- 13:00~13:20 中東欧の体制移行国におけるボローニャ・プロセスと高等教育改革
○上別府隆男 (福山市立大学)
- 13:20~13:40 「社会人の学び直し」はなぜ普及しないか
— 日仏比較からの知見 —
○夏目 達也 (名古屋大学)
- 13:40~14:00 知識は教育世論を変えるか
○濱中 淳子 (大学入試センター)
- 14:00~14:20 大学教育を批判する言説の批判的検討
○伊藤奈賀子 (鹿児島大学)
- 14:20~15:00 総括討論

アクティブ・ラーニング

司会： 杉谷 祐美子 (青山学院大学)

- 13:00~13:20 工学部における主体的学び
— 地方大学の事例 —
○藤埴 智一 (宮崎大学)
- 13:20~13:40 「山口と世界」を通じて明らかになった大学教育の成果と課題
○小川 勤 (山口大学)
- 13:40~14:00 ケースメソッドを用いたアクティブ・ラーニング型授業の実践と分析
○上島 洋佑 (金沢大学)
- 14:00~14:20 多様な共通教養科目へのアクティブ・ラーニング型授業の導入の試みと実践の課題
○清水 亮 (神戸学院大学)
- 14:20~14:40 アクティブ・ラーニングを支えるアクティブ・サポート
— 「待ち」の修学支援から学生を導く支援への発想の転換 —
○中村 章二 (愛知教育大学)
- 14:40~15:00 総括討論
-

自由研究発表Ⅱ - 5部会 5604教室

大学職員

司会： 山本 眞一 (桜美林大学)

- 13:00~13:20 **オープンアクセス時代の学術情報リテラシー教育**
—学術情報流通の変革と、担当者に求められるスキル—
○梅澤 貴典 (中央大学)
- 13:20~13:40 **大学職員の「業種専門知識」についての学習動機を規定する要因に関する研究**
○木村 弘志 (東京大学大学院/一橋大学)
- 13:40~14:00 **わが国の大学職員の仕事と育成環境**
○加藤 毅 (筑波大学)
- 14:00~14:40 **大学の教学部門を支える専門職に関する研究**
—教学 IR を中心に—
○高野 篤子 (大正大学) ○日下田岳史 (大正大学)
戸村 理 (國學院大學)
- 14:40~15:00 **総括討論**

自由研究発表Ⅱ - 6部会 5606教室

IR②

司会： 丸山 文裕 (広島大学)

- 13:00~13:20 **IRの発展過程の日米比較**
—政策・市場・専門性との関連から—
○山田 礼子 (同志社大学)
- 13:20~13:40 **日本におけるIRの機能に関する分析**
—IR組織の設置との関連に注目して—
○劉 文君 (東洋大学)
- 13:40~14:30 **経済的要因による中退・休学と学生への経済的支援に関する実証研究**
—全国大学・短期大学調査と中退者調査から—
岩田 弘三 (武蔵野大学) ○王 傑 (お茶の水女子大学)
○王 帥 (東京大学) 大島 真夫 (東京理科大学)
喜始 照宣 (東京大学大学院) 黄 文哲 (東京大学)
小杉 礼子 (労働政策研究・研修機構) ○小林 雅之 (東京大学)
白川 優治 (千葉大学) 濱中 義隆 (国立教育政策研究所)
日下田岳史 (大正大学) 朴澤 泰男 (国立教育政策研究所)
藤森 宏明 (北海道教育大学) 堀 有喜衣 (非会員:労働政策研究・研修機構)
谷田川ルミ (芝浦工業大学)
- 14:30~15:00 **総括討論**

質保証

司会： 稲永 由紀（筑波大学）

- 13:00～13:20 **教学マネジメントに資する内部質保証の推進**
—第3期認証評価を見据えた3ポリシーの実質化とPDCAの導入—
○江原 昭博（関西学院大学）
- 13:20～13:40 **日欧大学間のダブルディグリー・プログラムの質評価：学生の学修経験の視点から**
○高城 宏行（神戸大学）
- 13:40～14:00 **授業外学習時間をどのように測るか**
—学習と学習時間の再検討—
○中島 ゆり（長崎大学）
- 14:00～14:20 **高等教育の質保証における学習成果の位置**
—ブラジル・アメリカなどの経験から—
○塚原 修一（関西国際大学）
濱名 篤（関西国際大学）
山口アンナ真美（非会員：北海道教育大学）
- 14:20～14:40 **学協会・専門職団体による分野別質保証の取組状況と認識**
○林 隆之（大学改革支援・学位授与機構）
蝶 慎一（大学改革支援・学位授与機構）
- 14:40～15:00 **総括討論**
-

国際特設部会 5201教室

JAHER Annual Meeting, International Special Session

Higher Education Research in Asia and Japan

Agenda

10:00-12:00, Sunday, 26 June 2016

Otemon Gakuin University

Chair: Tatsuo Kawashima (Osaka University), Tatsuya Natsume (Nagoya University)

10:00-10:05

Introduction

Akiyoshi Yonezawa (Tohoku University)

10:05-10:30

Higher Education Research in Asia: understanding its development in national and international spheres

Hugo Horta (University of Hong Kong)

10:30-10:55

Developing a Regional Research Community: Theory development or theory borrowing

Jung-Cheol Shin (Seoul National University)

10:55-11:12

Higher education policy studies in Japan and its connection to the international community

Jun Oba (Hiroshima University)

11:12-11:30

Research and practices on university education in Japan and beyond

Reiko Yamada (Doshisha University)

11:30-12:00

Discussion

Commentator: Motohisa Kaneko (University of Tsukuba)

経営・組織③

司会： 両角 亜希子（東京大学）

10:00~10:50 日本的高等教育におけるガバナンス・組織文化・成果の関係に関する調査研究
—全国学部長アンケート調査に依拠して—

秦 由美子（広島大学） 大膳 司（広島大学）
○大場 淳（広島大学） ○天野 智水（琉球大学）
前田 一之（広島大学大学院） ○村澤 昌崇（広島大学）

10:50~11:40 大学組織運営改革に関する研究

—教育研究組織に着目して—

○川島 啓二（九州大学） ○朴澤 泰男（国立教育政策研究所）
○立石 慎治（国立教育政策研究所） ○遠藤 健（早稲田大学大学院）

11:40~12:00 総括討論

歴史

司会： 伊藤 彰浩（名古屋大学）

10:00~10:20 会津大学の入試制度の変遷

—会津大学の入試戦略について—

○山内 和昭（会津大学）

10:20~10:40 東京文理科大学昇格に向けた高等師範学校の拡張過程

○大前 敦巳（上越教育大学）

10:40~11:00 女子高等教育機関と研究

—女性科学者の先駆けにとっての研究環境—

○黒田 光太郎（九州産業大学）

11:00~11:20 戦後「適格認定」制度の成立と実施の過程

—大学および大学基準協会「会員資格審査」制度が果たした役割を中心に—

○藤原 将人（立命館大学/名古屋大学大学院）

11:20~12:00 総括討論

政策③

司会： 濱中 義隆（国立教育政策研究所）

- 10:00～10:20 **イタリアの高等教育制度の動向と課題**
—社会的包摂政策としての高等教育—
○土岐智賀子（立命館大学）
- 10:20～10:40 **小規模私立大学における学部類型別定員充足状況とその背景**
—時系列データ分析を通じて—
○有澤 尚志（文部科学省）
- 10:40～11:00 **学問と職業訓練と大学**
○磯田 文雄（名古屋大学）
- 11:00～11:20 **中国における高等教育財政の現状と課題**
—予算内教育経費の配分方式に着目して—
○黄 海玉（短期大学基準協会）
- 11:20～12:00 **総括討論**

学習成果②

司会： 濱名 篤（関西国際大学）

- 10:00～10:20 **トップレベルのスポーツ競技成績と学業との継続的両立における課題克服過程の分析**
—ある医師を目指す大学生の語りから—
○金森 史枝（名古屋大学大学院）
- 10:20～11:00 **教務データを用いた大学生の留年及び進路の予測について**
—大学における教学IRの推進と学生の学修改善のために—
○光永 悠彦（島根大学） ○原田健太郎（島根大学）
- 11:00～11:20 **自己評価の意識・認識とその後の学業成績との関連**
—初年次薬学入門実験を対象として—
○武田 直仁（名城大学） 川村 智子（非会員：名城大学）
谷野 秀雄（非会員：名城大学） 植田 康次（非会員：名城大学）
飯田耕太郎（非会員：名城大学） 田口 忠緒（非会員：名城大学）
- 11:20～12:00 **総括討論**
-

海外

司会： 杉本 和弘（東北大学）

- 10:00～10:20 米国の州立研究大学における **Development Office** の変遷に関する基礎的研究
—1980年代から1990年代のカリフォルニア大学の財務データを利用した分析—
○福井 文威（政策研究大学院大学）
- 10:20～10:40 米国における大学教科書事情とオープン教材に向けての流れ
—日本への示唆—
○船守 美穂（国立情報学研究所）
- 10:40～11:00 博士課程留学生の学業エンゲージメントとキャリア志向の関わり
—フィンランドの生物学分野に焦点を当てて—
○櫻井 勇介（東京大学）
Viivi Virtanen（非会員：University of Helsinki）
Kirsi Pyhälto（非会員：University of Helsinki・University of Oulu）
Sari Lindblom（非会員：University of Helsinki）
- 11:00～11:20 韓国における大学によるプログラム留学に関する実証研究
○張 燕（東京大学大学院）
- 11:20～11:40 フランスにおける「大学学長会議」
○白鳥 義彦（神戸大学）
- 11:40～12:00 総括討論
-

自由研究発表Ⅲ-6部会 5606教室

高専・短大

司会：吉本 圭一（九州大学）

- 10:00~10:20 **医療技術者養成教育の大学・学校種間比較**
—診療放射線技師を事例に—
○下瀬川正幸（群馬県立県民健康科学大学／東京大学大学院）
- 10:20~10:40 **短期大学の質的転換を促すための学生調査の開発**
○山崎 慎一（桜美林大学） 宮里 翔大（非会員：桜美林大学大学院）
堺 完（日本私立学校振興・共済事業団） 黄 海玉（短期大学基準協会）
- 10:40~11:00 **高等専門学校における一般科目実施組織の現状**
○加藤 博和（米子工業高等専門学校）
- 11:00~11:20 **専門学校から職業へ**
—専門学校生の就職活動とその帰結—
○大島 真夫（東京理科大学）
- 11:20~12:00 **総括討論**

自由研究発表Ⅲ-7部会 5301教室

学生支援

司会：沖 清豪（早稲田大学）

- 10:00~10:20 **キャンパスにおける多様性対応推進**
—包括的モデルの構築に向けた概念整理—
○大西 晶子（東京大学）
- 10:20~10:40 **アメリカ州政府による宝くじを財源とした学生経済支援の展開**
—テネシー州に注目して—
○吉田 香奈（広島大学）
- 10:40~11:00 **米国高等教育におけるピアプログラムのアセスメントの現状**
○安部有紀子（大阪大学） 望月 由起（昭和女子大学）
橋場 論（福岡大学）
- 11:00~11:20 **学生による学生支援の意義と課題**
—公的ガバナンスの視角から—
○橋場 論（福岡大学）
- 11:20~12:00 **総括討論**
-

5号館5201教室

大学教育の効用

<趣旨>

教育が未来への投資として有効であるという点に関しては誰もが認めるところであり、それゆえ研究対象としての「教育の効用」に対する関心は決して目新しいものではない。しかし教育の効用を定量的に測定することに対する社会的要請は近年再び高まっている。それは、教育投資一般の有効性は認めつつも、今日の社会情勢（財政事情）に鑑みれば、限られた財源を効率的に活用する観点から、優先的・重点的に投資すべき事項を、エビデンス・ベースで明らかにする必要がある、という理由による。むろんこうした議論には危うさがつきまとうことは否めない。エビデンスが比較的得やすい領域に議論が偏る恐れがあるからである。

一般的に、教育の効用は、「個人的-社会的」、「金銭的-非金銭的」の軸から整理される（下表参照）。

このうち、個人の所得向上に対する教育投資効果の実証研究は蓄積されているが、他の領域、たとえば社会関係資本の形成が民主主義社会の理念の実現や国民福祉の向上にどの程度寄与しているかといった研究は少ない。社会的効用についても、それは個人的効用の集積に過ぎないのか、あるいは個人に還元できない効用（外部効果）が存在し、その大きさはどの程度なのかといった点に関する整理も十分ではない。

そこで、大学教育の効用（便益）について分析的に幅広く捉える枠組みを考察することを本課題研究のテーマに設定した。

今年度は、先行研究の蓄積が進んでいる経済的効用に焦点化し、教育の効用の実証研究における理論的・方法論的フロンティアが奈辺にあるかを整理するために3本の研究発表を行う。これにより、経済的效果のみでは把握できない大学教育の効果(機能)を明確にし、次年度に非経済的効果の領域についての考察を深めることとしたい。

	金銭的 (経済的)	非金銭的 (非経済的)
個人的 (私的)	生産能力・所得の向上	個人の生活の質(QOL)の向上
社会的 (公的)	経済成長への貢献 (金銭的外部効果)	国民福祉の向上 社会関係資本の形成 (非金銭的外部効果)

<報告者>

- 1. 大学教育の効用についての文献研究と試験的実証分析

島 一則 (東北大学)

- 2. 大学における教授・学習経験の経済的効用

松繁 寿和 (大阪大学)

- 3. 大学教育の外部効果に関する研究

妹尾 涉 (国立教育政策研究所)

<コメンテーター>

濱中 義隆 (国立教育政策研究所)

<司 会>

吉田 文 (早稲田大学)

5号館5203教室

大学の教育マネジメントとガバナンス

<趣旨>

2000年代の大学改革課題として、学長のリーダーシップの強化、民間企業の経営手法の導入が要請されるようになり、さらにここ数年は大学のガバナンスが改革課題に加わり、結果として、2014年度の学校教育法改正に至った。マネジメントとガバナンスを民間企業における用法に則り、きわめて一般的に区別すれば、マネジメントは組織のミッションを遂行するために諸資源の活用方法を指すのに対し、ガバナンスはマネジメントの遂行を統治するための意思決定や合意形成システムと区別することができよう。

しかしながら、大学においては、その両者は得てして混同されて用いられることが多く、ガバナンス体制を構築すれば経営効率が上がるといった議論がなされることがある。民間企業経営のアナロジーが適用できない組織構造のもとで「経営」を行っている大学においては、マネジメントとガバナンスの要請をどのように受け止め、それに対してどのように対処すべきなのか。

また、「学生調査」から発展し、近年、IR(Institutional Research)機能に注目が集まり、担当部署を設置している大学も多いが、必ずしも役割は明確でなく、担当者においても行き詰まり感を表明する人たちもいる。IRには、対外的機能として情報発信とアカウンタビリティ、体内的機能として教育研究など大学の役割の課題や達成状況を把握して、マネジメントへの活用を果たすに側面があり、後者はPDCAサイクルの中に位置づけ、大学における教育マネジメントのあり方からも検討されるべきである。教育マネジメントでは、教員、コース・学科、学部、大学全体と様々な単位で重層的に行われているが、それを調整し、学生からみて望ましいサイクルを作り上げていくことが重要になっている。

以上をふまえて、2016年度の課題研究では、以下の3つの研究発表を設定したい。「教育」という観点から、意思決定や合意形成の単位や方法の変化はあるのか、学長のリーダーシップはどのような側面に浸透しているのか、IRの望ましい位置づけはどのようなものか、等についても、議論を行いたい。

<報告者>

1. 教育におけるガバナンス・マネジメント・リーダーシップ

羽田 貴史 (東北大学)

2. 学生からみた教育マネジメント

木村 拓也 (九州大学)

3. 教員の授業行動からみた教育マネジメント

藤村 正司 (広島大学)

<コメンテーター>

両角亜希子 (東京大学)

<司会>

夏目 達也 (名古屋大学)

学生会館大ホール

公開シンポジウム

教育と入試をどう繋ぐか—真の大学改革を実現するために—

<趣旨>

2015年1月に策定された「高大接続改革実行プラン」答申により、高校教育、大学教育及びそれらを接続する大学入学者選抜の一体的な改革の必要性が示唆され、各高校・大学においてその対応が迫られている。一方大学では、途中退学や休学する学生が後を絶たないという問題を抱えている。その原因のひとつとして、学業不振や不本意入学等による学習意欲の低下があげられる。最近では、事後対応による対策だけではなく、事前の予防策の重要性についても指摘されるようになってきている。このような背景から、大学が高校生に対して入学前の段階から、学力支援も含め「何のために大学に進学するのか?」「将来の夢・目標は何なのか?」「その夢・目標を叶えるためには大学で何ができるのか?」等について考える機会を提供することは重要である。なぜなら、入学前から卒業後に社会人となった姿を具体的にイメージし、明確な目標を設定することで、入学後における学習意欲向上へと繋がるのが期待できるからである。また大学側にとっても、学生の目標設定に合わせて教育プログラムを提案することが可能となる。学生が目標に合わせ必要な教育プログラムを選択することにより、将来のキャリアを見据えた「入試選抜」—「授業・教育プログラム」—「キャリア教育」と入口から出口まで一貫性のある大学教育が実現できると考える。既に、追手門学院大学では全国に先んじてアサーティブ入試・プログラムを実施している。アサーティブ入試・プログラムの真の目的は卒業後の人生に向けて入試—教育プログラム—キャリア教育の連動にあると言える。

本シンポジウムでは、入試改革の現状と課題を踏まえたうえで、高校、大学の事例を取り上げ、大学における教育と入試を繋げるための方策についてパネリストの方たちと一緒に議論していきたい。

<報告者>

1. 平岡 宏一 (清風高校校長、大阪私立中学校高等学校連合会副会長)
2. 荒井 克弘 (大学入試センター教授、入学者選抜研究機構長)
3. 福島 一政 (追手門学院大学副学長 (総務領域担当))

<コメンテーター>

本田 由紀 (東京大学大学院教育学研究科教授)

<司会>

秦 敬治 (追手門学院大学副学長 (学生領域担当))

1号館3F会議室5

日本高等教育学会 事務局 主催 IR ワークショップ

執行部における IR への理解促進と IR の成果の学内へのフィードバック

<趣旨>

2014年に学校教育法と国立大学法人法の改正がなされ、2015年からは学長のリーダーシップによるガバナンス改革を進捗させるために、教授会の役割が従来とは違う形で機能することになった。また、全ての大学にとって、学生人口が減少し大学進学率がそれほど上がらないなか、いかに学生を確保するかというテーマは健全な大学経営をしていくには最も大事な原点であるといえよう。それでは執行部はどのような方向性を定めて何をしなければいけないのだろうか。大学執行部は、戦略計画、中期計画をたて、大学の財務、学生情報、卒業生の動向、地域との連携、施設の充実と効率的なスペースの活用、産業界との連携、国際化、研究活動の充実、入学志願者情報にもとづくマーケティング戦略、広報の充実、学生の満足度のアップ、あるいは卒業生の産業界からの評価など様々な方策を IR 部門と連携して打ち出し、そうした方策の評価と強化あるいは場合によっては効果のない方策の見直しなども行わなければならない。同時に、IR 活動を大学内で推進していくためには、IR 活動を通じての情報や成果を学内の多くの教職員にフィードバックしていくことが求められる。執行部が大学経営を着実に実施していくためには、IR を理解し、活用していくことが重要となる。IR 部門はそうしたデータの収集、集積、そして分析を行い、エビデンスに基づきながら、執行部の大学経営のための意思決定に役立つ情報を提示しなければならない。その一方で、IR に対する学内での理解が進まない、データの供給や活用が円滑に進まない可能性がある。

IR 部門の設置が政策的にも組み入れられつつある現在、多くの大学において IR 部門や IR 担当者が配置されるようになってきている。しかし、IR 担当者は執行部に対して、どのようにデータを分析し、情報をまとめて資料を作成し提示すればよいのか。IR 担当者に必要とされるスキルはいかなるものか。また執行部から IR 部門に対しては、どのような資料の作成を要求し、それらをどのように活用すれば効果があるのか。また IR 活動の円滑な進展のために、IR の成果を、執行部のみならず学内全体にいかに関与すれば良いのだろうか。

本学会では3回目となる今回の IR ワークショップでは、「執行部における IR への理解促進と IR の成果の学内へのフィードバック」をテーマに、グループディスカッションを中心とした参加型の議論の場をデザインした。企画者は、今回のワークショップを、IR への理解の進捗と結果の応用に関し、個別機関に限らず日本の高等教育機関全体での現状と課題について、参加者相互に意見を交換し考察するような機会にしたいと考えている。多くの教員と職員の両方に是非参加していただき、本音で語り合う機会となれば幸いである。

<企画者・コーディネーター>

金子 元久 (筑波大学)、小林 雅之 (東京大学)、
森 利枝 (大学改革支援・学位授与機構)、山田礼子 (同志社大学)

日本高等教育学会第 19 回大会プログラム

発行日：2016年5月25日

発行者：日本高等教育学会第19回大会実行委員会

委員長 秦 敬治（追手門学院大学）

委員 池田 輝政（追手門学院大学）
岸岡奈津子（追手門学院大学）
佐藤 浩章（大阪大学）
高村 麻実（大手前大学）
辰巳 早苗（追手門学院大学）
橋本 圭司（追手門学院大学）
山田 礼子（同志社大学）
米澤 慎二（追手門学院大学）

（敬称略、五十音順）

日本高等教育学会 第 19 回大会実行委員会
〒567-8502 大阪府茨木市西安威 2 - 1 - 1 5
追手門学院大学 教育開発センター
E-mail : jaher2016@haruka.otemon.ac.jp
大会ホームページ <http://jaher-conference.jp/>